

広告チラシでゴミ箱を作る利用者＝池田町沓井、デイサービスくつ



「ゴミ箱作りは当初、少人数の利用者が始めた。自宅で折ったゴミ箱を施設に持ち寄り、「施設で使ってほしい」と、今回のプロジェクトを企画した介護職員の伊藤順子さん(37)に伝えた。誰かに使ってほしいという気持ちがうれしかった伊藤さんは「この思いを外にも発信したい」と、ケアマネジャーや隣接する歯科クリニックの患者にも手渡すようにした。

今では1日約20人が作業に関わる。ゴミ箱作りのほか、出来上がったものを袋に5個ずつ詰める作業もある。プロジェクトの目的が書かれた、袋に同封する「コンセプトカード」をはさみで切るのも利用者の仕事だ。中心となって取り組む加藤伸裕さん(44)は「自分たちが作ったものを多くの人に使ってもらえてうれしい。社会に貢献できていると感じる」とやりがいを感じる。

今年からはバローの協力で、入り口や購入した商品を詰める際に使う台にコーナーを設けた。4店舗とも毎週月、水、土曜日にゴミ箱を補充するが、各日計120袋追加が必要な好評ぶりだ。加藤さんは「作る量を増やして一人でも多くの人に使ってもらいたい」と意気込む。

誰かのために チラシゴミ箱

池田町沓井のデイサービスくつ利用者は、広告チラシで生ゴミなどを入れるゴミ箱を作っている。施設が進める社会参加プロジェクトの一環で、スーパーマーケットバロー池田店(同町本郷)など西濃地域のバロー4店舗にゴミ箱を置くコーナーを作った。買い物客が持ち帰り、使うことで利用者の生きがいづくりにつなげる。(杉原康仁)

池田町のデイ施設利用者、手作り

スーパーで好評「生きがい」



スーパーマーケットバロー池田店内に設置されたコーナー。買い物客は自由に持ち帰ることができる＝同町本郷